

# News Release

2020年11月26日  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
NITE（ナイト）  
東北支所

## 衣類や布団などの可燃物の接触到注意！ ～暖房器具による火災を防ぐ～ (東北版資料)

### 1. 事故の発生状況

2010年度から2019年度までの10年間にNITEに通知のあった製品事故情報<sup>※1</sup>のうち、暖房器具による火災事故<sup>※2</sup>は合計1,361件ありました。そのうち死亡事故が163件(191人)、重傷事故36件(59人)発生しています。東北地方での暖房器具による火災事故は、108件発生しています。そのうち死亡事故が12件でした。

東北地方での暖房器具による火災事故原因については、原因不明のもの34件に続いて、誤使用や不注意によるものが28件となっています。これからの冬場はストーブ等の暖房器具は毎日のように利用するかと思いますが、近くに可燃物を置かずに、暖房器具から離れる際は暖房器具を消すなどして、事故を未然に防ぎましょう。



表1 暖房器具による火災事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度	発生県						合計
	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
2010年度	0	3	1	2	1	3	10
2011年度	4	6	3	4	1	2	20
2012年度	0	5	4	4	3	0	16
2013年度	3	2	3	1	0	1	10
2014年度	0	1	0	2	1	3	7
2015年度	2	1	5	5	0	3	16

2016年度	0	1	2	1	0	1	5
2017年度	2	0	1	3	2	1	9
2018年度	1	1	4	0	1	2	9
2019年度	2	0	2	1	0	1	6
合計	14	20	25	23	9	17	108

表2 暖房器具による火災事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況	発生県						合計
	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
死亡	4	2	2	2	0	2	12
重傷	0	0	0	0	0	0	0
軽傷	1	2	2	2	3	4	14
拡大被害	6	12	18	16	6	7	65
製品破損	3	4	3	3	0	4	17
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	14	20	25	23	9	17	108

表3 暖房器具による火災事故の県別の事故原因区分別発生件数

原因区分	発生県						合計	
	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	3	1	3	0	1	4	12
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	1	0	2	0	0	3
	C: 経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	4	0	3	0	0	7
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	4	5	4	6	3	6	28
	F: その他製品に起因しないもの	2	4	8	3	1	2	20
G1、G2: 原因不明のもの	4	5	9	8	4	4	34	
H: 調査中のもの	1	0	1	1	0	1	4	
合計	14	20	25	23	9	17	108	

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。

(※2) 本資料で対象とする製品は電気ストーブ、石油ファンヒーター、ガスストーブ、ガスファンヒーター、こたつ、薪ストーブ等です。エアコンは夏場に事故が多いため、本件からは除外しています。

## 2. 主な事故事例

### ○2011年1月21日 石油ストーブ（福島県、年齢性別不明）

事故内容： 当該製品の消火操作直後に給油タンクを抜いた際、当該製品に灯油がかかり引火する火災が発生し、当該製品及び周辺が焼損、消火の際に1名が負傷した。

事故原因： 給油タンクの給油口が変形しており、使用者が、以前から給油中に給油口が開くことがあることに気づきながら、給油タンクを使用していたため、給油口が開き灯油がこぼれたものと判断した。

### ○2011年5月31日 石油ストーブ（青森県、70代女性）

事故内容： 当該製品から出火する火災が発生し、建物が半焼、2名が死亡した。

事故原因： 使用者が、当該製品の置台に灯油が貯留する不具合を認識しながら継続使用しており、また、吸気口がホコリにより塞がれた状態になっていたものと考えられたことから、未燃灯油が発生して置台に貯留する状態で継続使用されたため、燃焼時の炎が未燃灯油に引火して下方に吹き返し、置台上のホコリに着火して出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

### ○2013年12月6日 電気ストーブ（宮城県、10代女性）

事故内容： 当該製品を使用中、その場を離れたところ、当該製品から出火する火災が発生し、一戸建て2階部分が全焼した。

事故原因： 当該製品の出力切換スイッチの接点間距離が極端に短かったため、振動等により接点が溶着し、さらにタイマースwitchが完全に切れていない状態であったためヒーターに通電された状態となり、ガードに接触していた可燃物が焼損したものと推定される。

### ○2015年2月1日 電気こたつ（福島県、70代男性）

事故内容： 使用中の電気こたつから出火して、部屋を半焼し、1人が軽傷を負った。

事故原因： やぐらから外れたヒーターユニットを敷物の上に置いた状態で使用を継続したため、敷物が過熱されて出火したものと推定される。

### ○2016年3月12日 石油ストーブ（青森県、90歳以上女性）

事故内容： 使用中の石油ストーブ付近から出火して、住宅を全焼し、家人2人が死亡した。

事故原因： 石油ストーブの内部より出火した痕跡が認められなかったことから、石油ストーブの上方に干していた洗濯物が、ストーブの上に落下して火災に至ったものと推定される。なお、取扱説明書には「衣類などの乾燥には使用しない。衣類が落下して火がつき火災の原因になる」旨、記載されている。

### ○2019年11月24日 電気ストーブ（青森県、年齢性別不明）

事故内容： 中古で購入した使用中のハロゲンヒーター付近から異臭がして出火し、フロアマットを焼損した。

事故原因： 内部配線とヒーター管端部のリード線との金属管スリーブ（鉄製）による接続がカシメ不良であったため、接触不良により異常発熱し、発煙・発火に至ったものと推定される。

## 3. 製品事故の実験映像について

製品事故の実験映像に関しまして、写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

## 【編集人のつぶやき】

冷気がいよいよ強まり、ストーブの出番となりました。  
皆様も朝晩はエアコンでの暖房運転、ストーブ、あるいはこたつを利用されているのでは無いでしょうか？  
これから春先までは、暖房器具は毎日大活躍です。  
編集人は、雪国生まれでしたが、すっかり寒さに弱くなり、特にお風呂場の脱衣所などでも冬場の暖房はかかせません。少し前ですが、洗濯機を回し、着替えを洗濯機の上に置いたままお風呂に入りました。お風呂から上がったところ、電気ストーブの上に着替えがかぶさっており、ひやりとしました。洗濯機の動作での脱水時に、振動で着替えが滑り落ちたものと思われます。電気ストーブのスイッチが入っていたら火災になっていたところでした。

これからの生活に必須な暖房器具ですが、暖房器具付近には可燃物を置かないなど安全に利用して事故を未然に防ぎましょう。

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所

ナイト

(略称:NITE)

担当:菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、照井(てるい)

電話:022-256-6423

E-mail:jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE  
ホームページ

YouTube  
公式チャンネル

Twitter  
公式アカウント

